

① 都城市立有水小学校学校評価報告書 No. 1 アンケート回答数 教職員10名、保護者57家庭、児童90名

No.	分類	評価項目	対象	評価の結果 %				学校の自己評価	学校が考えた対策	考えられる具体的な手立て	学校運営協議会評価
				A	B	C	D				
1		子ども達は、意欲をもって学習に取り組んでいる。	教職員	20.0	70.0	10.0	0.0	児童の自己評価にくらべて教職員や保護者の評価は低い。別の調査では高学年ほど興味関心が下がっていく結果が出ている。学習意欲を高める指導法を工夫する必要がある。	学力向上の目的や意義、学力の基礎となる知的好奇心を高める教材の工夫や、将来に夢をもたせ実現させる手立てを考えさせるキャリア教育の充実	①学習に関する年間・学期・月目標の設定◆教務、学担 ②興味関心を高める教材提示の工夫◆学担 ③基本的な生活習慣の定着◆保護者との連携 ④中学校と連携し学力向上に取り組む◆担当・学担	高学年ほど学習の意欲が下がってくるのは大きな課題である。例えばIT機器の活用など、意欲を高める手立てを取って欲しい。
			保護者	33.3	56.1	10.5	0.0				
			児童	63.3	32.2	4.4	0.0				
2	知	子ども達に基礎学力(読み・書き・計算)が定着している。	教職員	30.0	60.0	10.0	0.0	読み・書き・計算については、毎日の取組で成果を上げてきた。しかし、CRTの結果をみると学習内容の定着に課題がある。特に高学年になるほど差が広がっていく。	個に応じた適切な個別指導の時間の確保が必要である。また、1時間の授業の中でのめあての焦点化と、達成度の評価による個別指導をする。定期的に学習内容の振り返り、学び直しの時間を持つ。	①習熟タイムの充実◆教務 ②授業の最後に練習問題等に取り組ませ学習の定着を把握しながらの個別指導◆学担	学校の取組の成果が現れている。昔から読み・書き・そろばんは学習の基本である。漢字は日常生活にも不可欠なので、ぜひ定着させて欲しい。
			保護者	22.8	71.9	5.3	0.0				
			児童	40.0	41.1	18.9	0.0				
3	育	子ども達は、自分から家庭学習に取り組んでいる。	教職員	30.0	50.0	20.0	0.0	児童自身はよく取り組んでいると考えているが、教職員や保護者は満足していない状況が伺える。取組に関しては、依然として個人差が大きい。ノーメディアデーは3/4の家庭で取り組まれている。	家庭と協力し、生活習慣の見直しによる家庭学習時間の確保をする。また、宿題や宅習の内容の充実を図るために、個に応じたきめ細かな指導をする。ノーメディアデーの取組を100%にし、生活のリズムを整えさせる。	①一日の生活スケジュール及び学習スケジュールの立案◆生保 ②日々の宿題、長期休業中の宿題の工夫と個別化◆学担 ③ノーメディアデーの推進◆担当	ゲームが手放せない子どもも多いと思うので、ノーメディアデーは、ぜひ推進してほしい。各家庭によっては厳しい取組になるかもしれないが、家族間の対話も増えることだと思う。
			保護者	24.6	59.7	14.0	1.8				
			児童	72.2	21.1	6.7	0.0				
4		子ども達は、進んで本を読んでいる。	教職員	30.0	40.0	20.0	10.0	教職員、保護者、児童ともに昨年度と比べての評価が伸びた。家庭でも子ども達が本に親しむようになってきていることが伺える。読み聞かせボランティアや家読の効果が上がっているものと思われる。	今の取組を継続させる。図書室の本の整理を進め、児童が読書に親しみやすい環境づくりをする。読み聞かせに協力していただく地域の方を増やす。家読の取組を徹底する。	①親子家読の日の充実◆教務 ②図書室の本の整理と計画的な購入◆教務 ③読み聞かせボランティアの募集◆教頭 ④家読の推進◆担当	本を読む子は学力も伸びるであろう。自分もそういう経験を持っている。読み聞かせと同時に、自分で読む時間も十分確保してほしい。
			保護者	28.1	47.4	21.1	3.5				
			児童	54.4	26.7	17.8	1.1				
5	徳	子ども達は、進んであいさつをしている。	教職員	40.0	40.0	10.0	10.0	見守り隊の方や登校指導の保護者の方への挨拶はよくなっているが、それ以外の日常的な場面でのあいさつができるようになってほしい。時々挨拶をしない児童もいる。	家庭や地域においてあいさつが習慣化するよう、一体となった取組を展開する。特に、家庭や地域でのあいさつ運動を奨励し、大人が率先して挨拶する。また、定期的にアンケート等で変容を見届け、指導に反映させる。	①大人のあいさつ率先垂範◆PTA ②家族・地域あいさつ運動の実施◆生保 ③あいさつについての地域アンケート実施◆担当	全体的にはずいぶん良くなっていると思う。しかし、まだまだ指導が必要な部分もある。親同士の挨拶を奨励することで改善されるのではないだろうか。PTAとしても取り組んで欲しい。
			保護者	40.4	45.6	14.0	0.0				
			児童	75.6	17.8	5.6	1.1				
6	育	子ども達は、正しい言葉遣いができる。	教職員	10.0	80.0	10.0	0.0	教職員・保護者の評価は年々上がってきている。学校においては、まだまだ指導の必要性を感じるが、一定の効果が認められることから、くり返し指導をした	相手の立場や心情を尊重できる思いやりのある言葉遣いができるようになる指導を継続させていく必要がある。教職員や保護者の言語環境を向上させる。	①大人の言葉遣い率先垂範◆PTA ②人権教育に基づく言葉遣いの指導◆学担	全体的によくなってきたと感じる。保護者も時と場に応じた言葉遣いに気をつけるようにしていきたい。いつも子どもに見られているという意識をもってもらいたい。
			保護者	17.5	70.2	12.3	0.0				
			児童	53.3	30.0	15.6	1.1				

都城市立有水小学校学校評価報告書 No. 2

No.	分類	評価項目	対象	評価の結果 %				学校の自己評価	学校が考えた対策	考えられる具体的な手立て	学校運営協議会評価
				A	B	C	D				
7	徳育	子ども達は、落ち着いた学校生活を送っている。	教職員	40.0	50.0	10.0	0.0	今のところ、大きなけがなどもなく、子ども同士の大きなトラブルもないが、保護者の評価が下がっている。職員が気を緩めず指導していかなければならない。	現在の取組を続ける。定期的なアンケートや情報交換により、確かな児童理解を実現するとともに、人との関わり方をスキルとして学ばせる機会を積極的に設定し、より確かで実践的な生徒指導を展開する。	①全教育課程を通しての道徳教育の充実◆教務◆学担 ②ソーシャルスキルトレーニングの実施◆教務◆学担	全体的に良好である。道徳教育やソーシャルスキルトレーニングを一層推進して欲しい。
			保護者	38.6	56.1	5.3	0.0				
			児童	43.3	44.4	8.9	3.3				
8		子ども達は、心身ともにたくましく育っている。	教職員	40.0	50.0	10.0	0.0	昨年度比で保護者・児童の評価が上がっている。教職員の評価は逆に若干下がっている。チャレンジ精神や粘り強さなど、精神的なたくましさという点では物足りなさもある。	児童の自主的な活動の場を設定する。また、家庭での様々な体験の場の設定や継続したお手伝いなどを啓発していく。家庭には、様々な体験活動に参加させたり手伝いなどの習慣化を定着させるようお願いする。	①一人黙々ボランティア活動の積極的推進◆生保◆学担 ②特別活動の充実◆生保 ②学級懇談の充実◆教務◆学担	様々な体験活動によってたくましさを身に付けてもらいたい。地域や保護者として協力できることがあれば、協力は惜しまない。
			保護者	50.9	49.1	0.0	0.0				
			児童	53.3	40.0	6.7	0.0				
9	体育	子ども達は、進んで体力づくりに取り組んでいる。	教職員	30.0	60.0	10.0	0.0	昼休みの外遊びが増えたり、低学年からのスポーツ少年団への入部が増えたりするなどの傾向がある。体力テストのA判定の児童は、増えているが依然として運動する子どもとしない子どもの二極化傾向がある。	学校では体力向上プランに則った取組を継続する。家庭でもそれぞれの実情に応じた方法を確認し、継続的かつ意欲的に取り組めるように呼び掛けていく。	①体育の時間における運動量の確保と有水サーキットの実施◆生保 ②姿勢体操等家庭での取組の奨励◆生保	少女バレーなどのスポーツ少年団が活躍しているようで、うれしく思っている。学校と家庭と連携して子どもたちの体力向上を推進して欲しい。
			保護者	36.8	56.1	5.3	1.8				
			児童	71.1	14.4	13.3	1.1				
10		子ども達は、食事をかたよりなくとっている。	教職員	30.0	60.0	10.0	0.0	職員の評価は下がってるが、保護者の評価は上がっている。給食よりも家庭でのほうがよく食べることが伺える。嫌いなものでも何とか食べようとする意識は低い。	弁当の日を推進するとともに、食に関する授業や給食試食会を通して児童・保護者の食に関する意識を高める啓発活動を行う。	①弁当の日の推進、食育授業と給食試食会の実施◆教務◆生保 ②給食指導の進め方(特に偏食・小食指導)の共通理解・実践◆生保 ③家庭教育学級におけるの食育についての研修◆PTA	昔は皆、よく食べていたようだったが今はそうでもないのだろうか。食育はとても重要な教育だと思うのでぜひ充実させて欲しい。食の大切さについて、保護者への啓発を積極的に行って欲しい。
			保護者	40.4	56.1	3.5	0.0				
			児童	61.1	33.3	4.4	1.1				
11	その他	学校は、子どもや保護者の相談をよく聞いてくれる。	教職員	30.0	70.0	0.0	0.0	保護者・児童の評価は上昇傾向にある。学校を信頼し応援していただいと受け止めたい。教育相談の時間を確保することで気軽に相談できる雰囲気づくりに努めた。	PTA活動をはじめ、保護者・地域・教職員の相互理解を図る機会を拡充させる。また、積極的な教育相談活動をととして児童理解に努め、さらに信頼される教職員を目指す。	①PTA関連行事・地域行事への積極的参加◆全教職員 ②教育相談の充実◆教務◆学担	いじめによるとと思われる小中学生の自殺などの報道がある。学校は子どもたちの実態を十分把握して、そのようなことにならないように努めて欲しい。
			保護者	45.6	50.9	3.5	0.0				
			児童	77.8	21.1	1.1	0.0				
12		学校が、児童や教師の笑顔であふれている。	教職員	10.0	90.0	0.0	0.0	保護者・児童の評価は上がっているが教職員は下がっている。一人一人が自己のもっている力を発揮できるような支持的雰囲気のある人間関係の醸成が不可欠である。	人権教育の推進に努め、児童どうしが存在を認め合う人間関係づくりを推進する教育活動を推進する。また、児童と教職員の信頼関係を向上・維持させていく。	①全校集会・学年部集会の見直し◆教務 ②朝の会・帰りの会の見直し◆学担 ③参加体験型学習(ワークショップ)の推進◆人権担当	時折、学校を訪ねると、その明るい雰囲気が見て取れる。職員と子どもたちの健全な関係が表れている。また、保護者と職員との距離も近く、笑顔で接している様子が伺える。
			保護者	52.6	42.1	5.3	0.0				
			児童	84.4	12.2	2.2	1.1				

13	その他	学校は保護者とよく連携している。	教職員	20.0	80.0	0.0	0.0	職員・保護者ともに概ね良好な評価である。学校と保護者の連携は学校経営の基盤となるものであるからこの信頼関係を維持できるように努めたい。	参観日や懇談等に加え日常的な連絡を連絡帳や電話等を利用して今以上に積極的に行うなど学校からの情報発信と相談しやすい学校づくりをめざす。	①学級懇談の充実◆学坦 ②連絡帳・電話・メール等の連絡体制の充実◆学坦・担当 ③オープンスクールの参加拡大◆担当	評価も高くうれしいことである。学校と保護者の連携を今後も進めて欲しい。
			保護者	47.4	47.4	5.3	0.0				
			児童								
14	その他	学校は地域とよく連携している。	教職員	10.0	90.0	0.0	0.0	職員・保護者ともに概ね良好な評価である。今後PTA戸数の減少等に伴い、学校・保護者・地域の連携はますます重要になってくる。	学校と地域をつなぐコーディネーターを決め、地域から学校の応援団として幅広く協力を求めている。学校が核となり保護者と地域をつなぐ役割も果たせるよう努める。	①学校行事の見直し◆教務 ②学校運営協議会の充実◆担当	以前にくらべると、学校と地域との関係は希薄になっているように思う。学校運営協議会を通して、学校と保護者・地域を繋いで行く必要がある。
			保護者	45.6	52.6	1.8	0.0				
			児童								